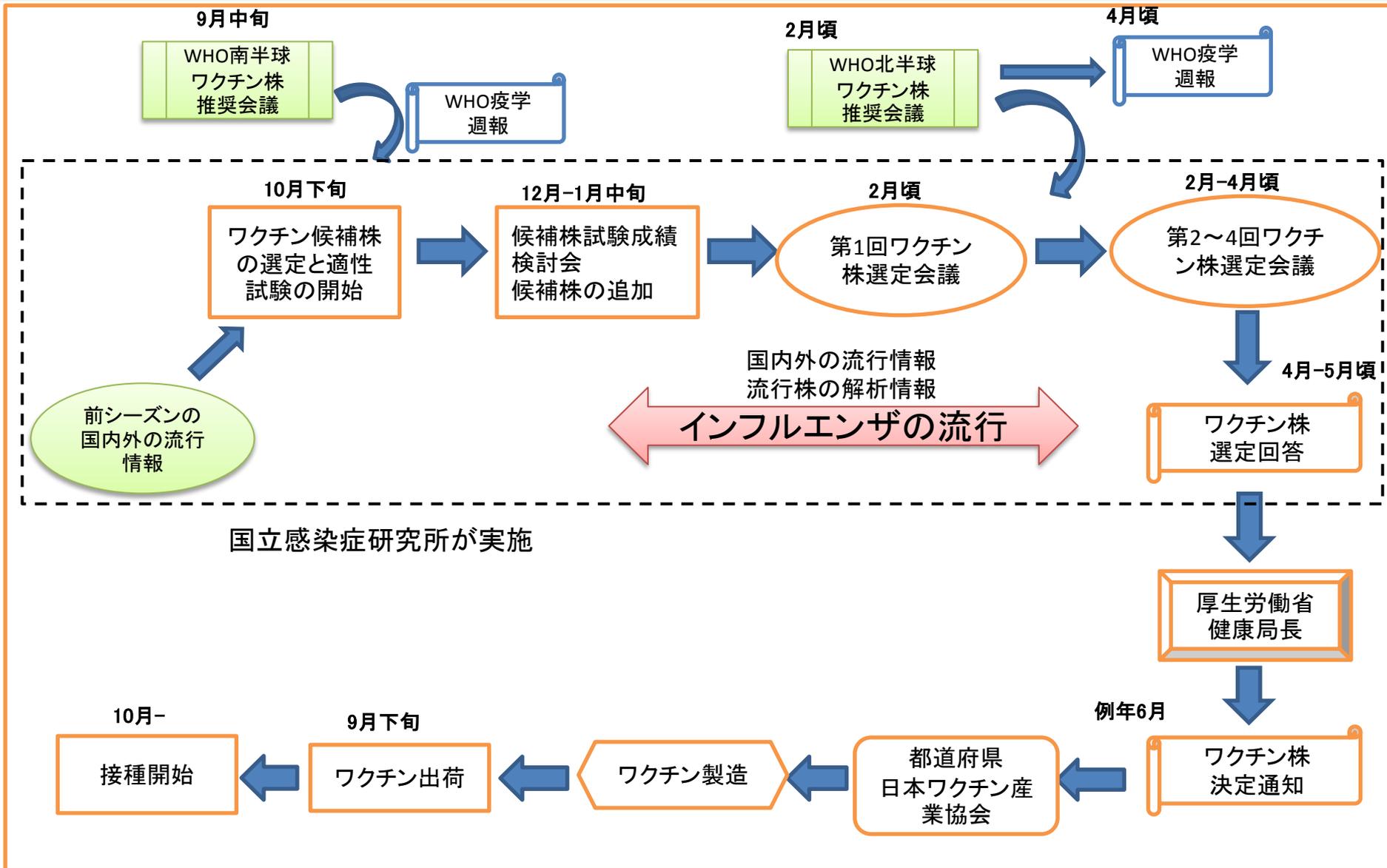


2012/13シーズンのインフルエンザワクチン株について

インフルエンザワクチン株とその選定プロセス



2012/2013シーズンインフルエンザHAワクチン製造株について

1. WHO が推薦するワクチン株の構成

WHOは以下のインフルエンザ株の流行を予測しており、ワクチン株として推奨している。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09類似株
- (2) A/ビクトリア/361/2011 (H3N2)類似株
- (3) B/ウイスコンシン/1/2010類似株

2. 我が国のワクチン製造株について

上記WHO勧告を踏まえ、2012/2013シーズンは以下の3株をワクチン株として選定した。

- (1) A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09 (X-179A)
- (2) A/ビクトリア/361/2011 (H3N2) (IVR-165)
- (3) B/ウイスコンシン/1/2010 (BX-41A)

※国立感染症研究所における検討の結果、

○A/H1N1の型については、流行中の株は2011/2012シーズンのワクチン株と抗原性に大きな違いはないことなどから、A/カリフォルニア/7/2009(H1N1)pdm09 (X-179A)(2011/2012シーズンと同じ)を選定した。

○A/H3N2の型については、流行株に対する交叉免疫性、ワクチンの製造におけるウイルスの増殖性などについて、他の類似ワクチン株と比較した結果、A/ビクトリア/361/2011(IVR-165)が総合的に最も適切であると判断し、製造株として選定した。

○B型については、①日本を含め、世界的にはビクトリア系統が流行の主流であるが、山形系統も徐々に増えていること(ただし、中国を除く)、②日本人はビクトリア系統に対する抗体保有レベルは全年齢層で高いが、山形系統に対する抗体レベルが低く、山形系統が流行の主流となった場合、流行が大きくなる可能性があること、などを踏まえ、山形系統からB/ウイスコンシン/1/2010(BX-41A)を製造株として選定した。